

これからの英語は **4 技能**が当たり前

今後の小学校・中学校・高校の英語教育、そして、**大学入試英語**は「**4 技能**」中心に変わります。子どもたちが英語を学ぶ上で“必須”となるこの「**4 技能**」、皆さま、どの程度理解されていますか？ここでは4技能の具体的な中身と、子どもたちの英語や将来にどのように関わってくるのか、“4技能のキホン”について少し触れたいと思います。



4 技能化で大きく変わる学校英語・受験英語

「技能」というとやや大きさに聞こえますが、「**4 技能**」とは、**listening (リスニング)**、**speaking (スピーキング)**、**reading (リーディング)**、**writing (ライティング)** の‘four skills’の直訳です。より具体的には、英語を「**聞く**」「**話す**」「**読む**」「**書く**」の4つのコミュニケーション能力のことを言います。ご存知のように、社会のグローバル化が進むにつれ、英語でコミュニケーションをとる必要性がますます高まっています。そして実は、文部科学省の「学習指導要領」にも、小中高を通じて、子どもたちの英語によるコミュニケーション能力を育成し、「**聞く**」「**話す**」「**読む**」「**書く**」の**4 技能をバランスよく育成**することを目指す、と明記されています。



その一方で、多くの子どもたちにとって、英語学習の最大の目標と言っても過言ではない「**受験英語**」はどうでしょうか？親世代でもそうでしたが、大学入試の英語問題はキホン、「**読む**」（文法・長文読解）の1技能だけを測定します。リスニングがある大学入試センター試験でさえ、筆記200点に対し、リスニングは50点しかない、1.25技能の試験です。

受験英語は、学習指導要領が求める4技能とは大きく異なっています。これにより、“大学合格”という子どもたちの目標を支援するために、これまで学校では1技能中心の指導にならざるを得なかったのです。だから…これからは、使える英語「**文法/読む.書く 40分日本人講師 & 英会話/話す.聞く 40分アメリカ人講師 計 80分レッスン**」の**つくし英語学院**に入学してみませんか？現在の小中学生の皆さん……将来に備えませんか。

つくし野英語学院

設立 1991 年

042-795-5577